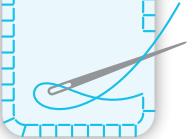


# パパが産み出す、パパの幸せ、家族の幸せ



「パパの手で作る赤ちゃんのハッピータイム」受講者の声から見えてくることは、パパ同士のちょっととしたきっかけが、パパだけでなくママや子どもにも良い変化や影響を生むということです。

本誌では、育休を2度取得した経験があり、多くの夫婦と接してきた塚越さん(つかこし まなぶ)に、パパが仕事も育児も両立しながら生活を楽しむ方法を伺いました。

塚越さんは、「父親であることを楽しもう」という考え方のもと様々なプロジェクトを開拓する、NPO法人ファザーリング・ジャパンの理事でもあり、大田区男女平等推進区民会議委員の他、両親学級の講師としても活躍中です。

やり方が分らなくて当たり前  
パパスイッチを始動させよ

講座を通して、パパは育児に自信を持てたように感じます。結局パパたちは、やり方が分からぬのです。ママも初めての子どもだつたら当然分から

ないのですが、里帰り出産で両親から教わったり、子どもと接する中で覚えていきます。妻に比べて育児の機会が少ない夫は、やり方が分からぬから全体像が見えず、指示待ちになってしまいます。会社の新人と同じです。できるようになるためにはあきらめずにママがパパに教えることが必要でしょう。



## パパがイクメンになれる 体験とタイミングは?

パパが育休をとることは自分にも家族にも大きな効果です。育休が難しいなら休日です。夫が育児をするかどうかについては、男女共同参画の意識や性別役割分業意識の有無が影響していると思われがちですが、実はあまり関係がないようなのです。ある体験が、男性の意識や行動を変えるといわれています。それは、パパと子どもの二人きりの時間で、世話をせざるを得ない体験です。育児を一人で全部できることが分かると自信がつき、意識や行動が変わっていく。育児・家事の全体像も分かつていくんです。ママは、パパ一人に任せるのは

不安かもしれませんのが、こうした体验が、子どもの父親への信頼にもつながりますので、ぜひ多くの機会を作つてほしいですね。

父親の中には、妻の育児には勝てないし、自分にはできないという人もいます。勝ち負けの判断になりがちですが、子どもにとつては母親だけに育てられるより、父親、保育者、友達など色々な人に関わるほうが成長にはいいわけで、それぞれ特徴があつて当然なのです。自分なりの楽しさを経験し、自分なりのコツをつかみながらやっていくことなのです。

私はよく「母親は一番にならないで」と言っています。夫の育児家事の前に立ちふさがり、手出し・口出しをしたい気持ちをグッと抑えて、ありがとうと感謝の言葉を伝えてほしい。夫をほめることに抵抗のあるママもいるかと思いますが、ほめることで夫がその行動を繰り返すことにつながります。

逆ももちろん言えることで、夫が忙しくて育児ができなければ、妻にねぎらいの言葉をかけるということが大切です。家事育児はできなくても、夫が妻を気遣っている家庭では妻の満足度は高いといわれています。